2010 年度 小委員会活動成果報告

（2011 年 2 月 15 日作成）

小委員会名	設計・生産の情報化小委員会	**主 査 名**：猪里孝司 **就任年月**：2009 年 4 月
所属本委員会 （所属運営委員会）	情報システム技術委員会	**委員長名**：加賀有津子
設 置 期 間	2009 年 4 月 ～ 2011 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 （箇条書き）	【設置目的】 ・オブジェクト指向型 3D-CAD や BIM による設計・生産のプロセス変化を考える。 ・設計･生産のプロセス変化をもたらす建物情報モデル（BIM）や統合設計（IPD）利用の可能性、問題点を検討議論し、実利用への可能性を探る。 ・他産業を含めた各業界の動向を知り、建設界の方向を見極め提案・提言する。 ・委員会活動を通じて得られた情報を分析・整理し広く会員に還元する。 【活動計画】 初年度：・BIM 活用の推進の方策検討 ・BIM 関連団体との協調活動 ・大会において研究協議会を開催 ・情報･システム･利用･技術シンポジウムにおいて活動成果を発表 2 年度：・BIM 活用の提言 ・第 14 回 BIM・CAD 利用実態調査を実施 ・情報･システム･利用･技術シンポジウムにおいて活動成果を発表	
委員構成 （委員名（所属））	**委員公募の有無**： 無 主査：猪里孝司（大成建設） 幹事：榊原克巳（CI ラボ）、田部井明（竹中工務店）、中元三郎（安井建築設計） 委員：安生暁（日建設計）、加賀有津子（大阪大学大学院）、苅谷邦彦（山下設計）、纐纈博司（コア･システムデザイン）、玉井洋（鹿島建設）、東山恒一（清水建設）、溝口直樹（ダイテック）、本江正茂（東北大学大学院）、山極邦之（大林組）、山口重之（東京都市大学）	
設置 WG （WG 名：目的）	**設計・生産の情報化実態調査ＷＧ**：設計実務における IT 化の実態調査 **設計・生産の先端利用技術調査ＷＧ**：建築関連の情報技術の調査・研究 **統合プロジェクト推進法研究ＷＧ**：統合プロジェクト推進法の調査・研究	
2010 年度予算	70,000 円	**ホームページ公開の有無**： 学会常設委員会でのみ **委員会 HP アドレス**：http://aij.cn.cst.nihon-u.ac.jp/modules/seisan3/

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回（WG と共同開催を含む）
刊行物 （シンポジウム資料等は除く）	
講習会	
催し物 （シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等）	1．第 33 回情報･システム･利用･技術シンポジウム小委員会企画研究集会②「BIM 最前線とこれから」（情報連携 BIM 研究小委員会、建築情報マネジメント教育小委員会と共同企画） 参加者数 111 名 『第 33 回情報･システム･利用･技術シンポジウム論文集』所収（pp. 225-310） 2．シンポジウム「BIM で設計、教育は変わるのか？ －BIM とインターネットを活用した設計コンペからみえたこと」（建築情報マネジメント教育小委員会、情報連携 BIM 研究小委員会と共同企画） 参加者数 127 名

大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 （当初の活動計画と得られた成果との関係）	当初計画していた活動目標に基づき、下記の成果を得た。 １．国内外での最新の BIM 活用事例を題材とし、これからの BIM および IT 活用についての課題と可能性について、建築情報マネジメント教育小委員会、情報連携 BIM 研究小委員会と共同で、研究集会を企画し有用な報告・討論ができた。 ２．設計実務や建築教育における BIM の影響について議論する、シンポジウム「BIM で設計、教育は変わるのか？」を開催した。 ３． 1986 年から継続している「建築 CAD 利用実態調査」を実施した。BIM が市民権を得たことをうけ、今回から「建築 CAD・BIM 利用実態調査」とした。BIM の普及、活用の実態を捉え、第 33 回情報･システム･利用･技術シンポジウムで報告した。
委員会活動の問題点・課題	１．BIM の活用事例やその可能性は各方面で唱えられ、さまざまな団体が推進活動を行っている。現状では、各団体が独自に活動しているが、BIM の影響を考えると関係団体の協調が不可欠と考える。建築学会がその中核を担うべきだと考えるが、そのような機運が見えない。
その他	